

教区民の皆様へ

教区民の日(世界宣教の日)10月20日に向けて 諏訪榮治郎 司教

－社会とともに歩む教会をめざして(福音の奉仕者としての教会)－

この11月に教皇フランシスコが日本を訪問されます。38年ぶりの教皇の訪日となります。

思えば1981年教皇ヨハネパウロ二世の日本への訪問は第二バチカン公会議の精神が日本の教会に浸透を促すためでもありました。長い年月の間に教会の姿勢と現代社会との間に大きなずれが生じていたのです。内に閉じこもりがちな教会から、積極的に「社会に開かれた教会」へと方向を促すためのものでした。この教皇に答えようと開かれたのが1987年の「福音宣教推進全国会議」「NICE」でした。この時のナイスの画期的な特徴の一つは、「教会はこうあるべき」という従来の姿勢から「社会の現実が教会に何を問いかけているのか?」「教会はどう答えるのか?」という「社会の現実から出発する教会」という姿勢でした。

このナイスから30年、これを受けて、私たちは教区あげて3年にわたり「生涯養成委員会」と「教区女性の会」の協力のもと「福音マーケット」の実施に向けて取り組んでまいりました。これまでの経過は以下の通りです。

	福音マーケット 課題・内容	実施場所
2017年 Part1	・私たちの地域(社会)には生きることにおいてどのような難しさがあるのでしょうか? ・教会が持っている宝(豊かさ)はどのようなものなのでしょうか?	各小教区にて実施
2018年 Part2	・私たち教会がいただいている宝(豊かさ)を確認し、深め分かち合いましょう。	地区・ブロック
2019年 Part3	・教会が福音の奉仕者として、社会にどのように仕えることができるのかその方向を探りましょう。 ・具体的な次の一步を歩みだすために何ができるでしょうか。	教区民の日 10月20日
2020年 Part4	・方向性と実施の歩みを振り返る。 ・発見と気づきを深め合う	地区・ブロック

「教区民の日」は教会が福音の担い手としてこの社会(地域)の中でどのように、ともに歩み、奉仕することができるのか、その具体性もしくは方向性を探るために行います。

各小教区で目標に向け取り組みやすいように、生涯養成委員会は教区民の日に向けて**「準備マニュアル」を作成し、8月中に送付いたします。各小教区またはブロックで「教区民の日」に向けて Part3 の「福音宣教」の目標(具体案・もしくは方向性を)を見出していただきたく準備をお願いいたします。

*「準備マニュアル」はインターネットのカトリック高松教区 HP に掲載されています。

当日の具体的なプログラムなどは「生涯養成委員会」で準備を進めております。教会が「日々の糧」を分かち合い、福音において社会との新しい関係の奉仕者となれますように、主の導きと祝福をお祈りいたします。訪日される教皇様に心を合わせ、お迎えできることを祈りつつ、喜びの内にもともに歩んでまいりましょう。

II

福音マーケットの共同作業

—教会の現状と今後のあり方をさぐる—

教会は、すべての人間が神の救いに与るためにキリストによって建てられた共同体です。

そこにはすべての人の必要を満たすための何かがあります。この場は、すでに教会の目に見える構成員となった信者にとっても、また、洗礼を受けていない人たちにとっても救いの喜び、つまり「福音」に与ることのできる場です。

マーケット(市場)では多くの人たちが生活に必要なものを手に入れるために集まってきます。また、自分の手元にあるものを売ろうとする人も集まります。福音を求める人の集う場である教会をマーケットにたとえて一緒に考えてゆくことがこのプログラムの目標です。

具体的に、この教会を構成している私たちが(自分自身を含めて)、福音を求めるどのような「叫び」を知っているか(感じているか)を出し合い(下図 A)、また、その必要性に応えるどのような具体的な福音(下図 B)をもっているのかを明確にしていこうとするプログラムです。

グループによる共同作業を通して、私たちの教会の現実と人々の叫びに応えるための次の一步を探っていきます。(C)

作業 1. 次の [A] に入る事柄を、単語ではなく、ひとまとまりの表現で、短冊を横にして、左から右に、横書きで書いてください。

※この質問のポイントは、「人々は具体的にどのような福音、救い、いやしを求めていると思いますか」ということです。

私
姉
友人
ある人
()

は今、[A] で、とても

困っています。
助けを必要としています。
悩んでいます。

作業 2. 問 1 と同様に、次の [B] に入る事柄を、短冊に書いてください。

教会には [B] という

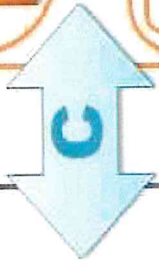
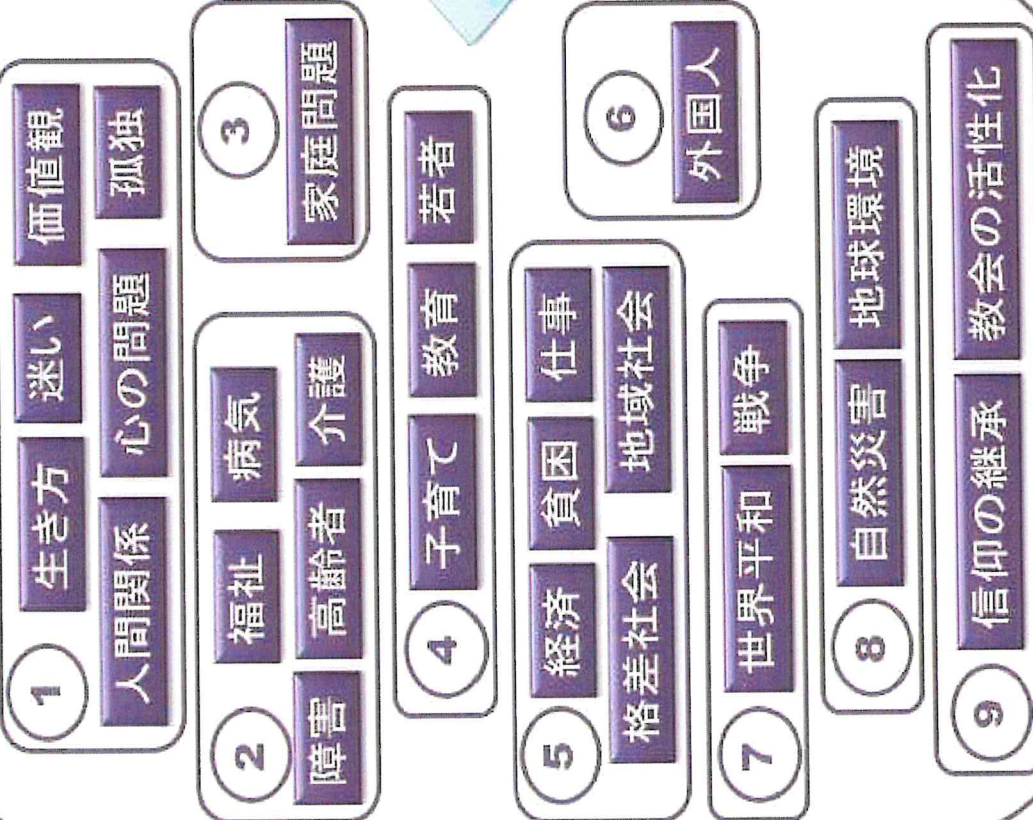
すばらしさがあります。
人々に喜んでもらえる長所があります。
今後も大切にしていきたいものがあります。

作業 3. A と B を並べてみんなで見比べてみてください。「何か見えてきたもの」をどんどん書き出してください。その「見えてきた」もの (C) を発表してください!

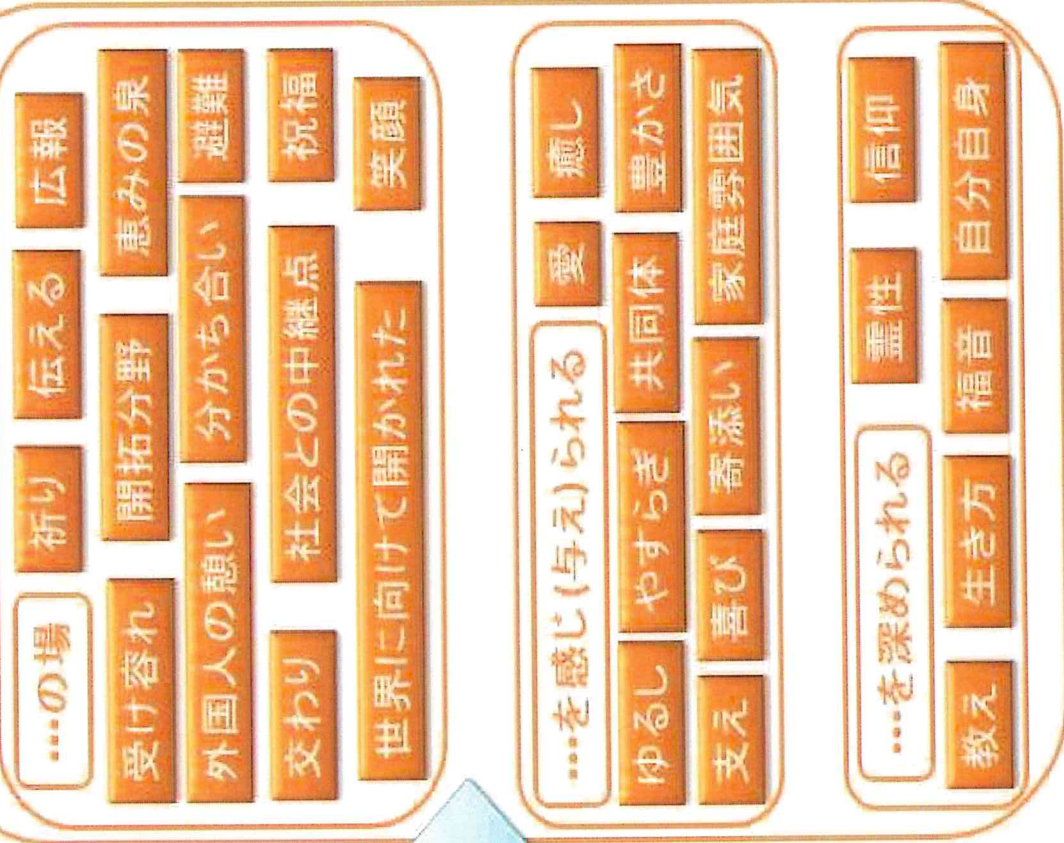
全体会で. 各グループからの「見えてきた」もの (C) の発表を基にして、これからの私たちの歩みを話し合いたいと思います。

III

A 社会の問題



B 教会の宝



IV

C (AとBを並べて見えてきたもの)

第11回 高松女性の会 高知大会 (2019.6.29) —各グループの発表—

① 生き方, 迷い, 価値観, 人間関係, 心の問題, 孤独

- ・一人暮らしでは教会の交わりが大切。教会にとっても、その方は大事な役割を担ってもらっている。
- ・傾聴をとおして、心を病んでいる人の気持ちがわかり、気の実解が出来、対処の仕方が分かった。教会に話に来た人に最初に「よく話してくださいました」と、まず傾聴することが大事である。
- ・心病んでいる人とのメール交換を通して、自分もほっとすることがある。ただ、深入りしてはいけないことと、対処の仕方を勉強し、慎重にしないとけない。
- ・一人暮らしのお家に声掛けは難しいが、教会での声掛けでコミュニケーションをとると、うれしく思う。
- ・親の介護の為に帰ってきたが、外に目を向ける余裕がなく、自分の信仰しか考えられない。ただ、すべてに時があり、今は家族を支える時なのだと思うている。
- ・社会の中で、話を聴いたり、カウンセリングをしている。
- ・教会がほっとする場になるには時間がかかる。みんなが仲良くお茶をし、のんびりできるような雰囲気にならばいい。

② 福祉, 病気, 障害, 高齢者, 介護

- ・その人の為にお祈りをする。
- ・バザーの時にいろいろなものを作って収入にし、それを福祉のために使う。
- ・介護している方は大変だが、信仰につながる忍耐と信じて行く。
- ・まず教会に来てもらうことが大事なので、教会はだれでも来られる場所であることを皆に知らせる。その方法として、教会のホームページにその情報を載せる。教会の壁に、「教会はみんなのもの」と表示。信者であるなしにかかわらず、まず教会に来てもらう。イベントなどに参加してもらう。
- ・小さな喫茶店などを開いて、人との関わりを大切にする。
- ・教会に来られた方には笑顔で対応。人それぞれの違いを受け入れる。親切にする。初めての人には案内係が案内する。こちらから声をかけることが大事。
- ・教会に来られた方に教会のこと、信仰について正しく伝えられるといい。

③ 家庭問題 (注: このグループには、このテーマを選んだ人がいなかった。)

- ・ご聖体を遠方の方に届けるときに、少しでもその方の話を聞く。
- ・家の近所の右にも左にも声掛けをしたい。
- ・ベトナムの信者さんに声掛けをし親しくなる。
- ・家族葬の葬儀の時、親族の方々に、教会へ来るように、教会の良さを伝えるように担当者(葬儀委員)が関わっている。
- ・教会は気軽に行けるところだということを伝えていきたい。
- ・小教区がまずは家庭的な雰囲気になるように努めたい。そのためにかかわってきたい。
- ・自分自身がまず声をかけてもらえるような人間になりたい。信仰を伝えるためには体力気力が欲しい。

④ 子育て, 教育, 若者

- ・若者のニーズを知る。そのために若者との接点を作り、若者同士の絆を作る。仲間づくりの場を提供できるのではないかな。
- ・今までにも AA (Alcoholics=アルコールの、Anonymous=依存者の支援団体) や DARC (Drug=薬物, Addiction=依存, Rehabilitation=回復, Center=施設) のような団体にも教会は場所を提供しているが、提供することで少しでも現代社会が抱えている問題解決の助けになるのではないかな。

- ・学童保育的な場所。子ども食堂。イベントなどを行う。仕事を失ったり、社会の中で行き詰まっている若者、父親、母親が本音で語れる場所を提供することもできる。
- ・地域の中での活動、社会奉仕を通して、次の世代の若者たちへ教育を行う。
- ・これからの活動の根本としては、人の話をよく聴いて信頼関係を築いていくことが大切。
- ・一人で出来ることもあるが、私たち一人一人は弱いので、教会共同体として皆で行うことが大切ではないか。

⑤ 社会, 格差社会, 経済, 貧困, 地域社会, 仕事

- ・食生活改善委員会に所属し、独居老人の為に弁当を提供し、村の活動で無料奉仕をしている。
- ・シルバー人材センターに勤め、独居老人との関わりで、徐々に信仰を伝えている。
- ・友人を通して、キリストの価値観を伝える。
- ・勇気を出して困っている人を助ける。
- ・周りの人々に目を向け、弱者に気づき、何ができるかを意識する生き方を継続する。

⑥ 外国人

- ・日本語、英語の教室をすでに始めている。勉強に来る外国人の人数が減っても教室を続けることの大切さ。そのことによって外国人へ情報が伝わる。
- ・色々な問題が相談された場合、自分の力ではなかなか解決することが難しく、教会に専門家がいなくても、役所などと仲良くして、解決できるようつながりを持つことが大事。
- ・小さなことから始めたい。笑顔で挨拶をしたり、お茶に誘ったりして、そのおしゃべりの中でコミュニケーションを深め、信頼関係を築いていきたい。
- ・少人数であっても、その様子を SNS など公開したら、外国人の方や日本人の方に関心を持ってもらえるのではないかな。
- ・対応できる日本人の数が少ないが、浴衣を着せてあげたり、外国人が日本の文化を楽しんでもらえることなどを取り組んでいきたい。
- ・外国人の労働者が増えてきているが、社会的な色々な問題に取り組んでいきたい。そのような問題を、信者として、教区として、情報を発信し窓口となっていきたい。
- ・学校からの手紙をもらって困っている外国人の家族のお手伝いをする。
- ・教会内での情報の伝達がうまくできているか心配している。教会のお知らせに、ひらがなやカタカナをふる。それ以外にも、ポスター、トイレの表示もわかりやすくする。
- ・仕事が忙しいので、教会になかなか行くことが出来ず困っている。ミサに出席して力をもらいたいが、仕事か宗教かと職場に問われると辛くなる。日本は教会への理解が少ない。
- ・外国人が作っている ICG (International Catholic Group) というグループがあり、外国人日本人に限らず、困っている方に何かお手伝いをするグループ。こういうグループと一緒に活動していきたい。
- ・教会が取り組んでいる活動があるが、それが本当に役立っているかを見直し、改善できるところは実行していきたい。
- ・小教区で決めたことが外国人の方たちに伝わっているか、あるいは教会に置いている書物(典礼)が適切に準備できているか等、見直していきたい。
- ・外国人のための英語ミサがあるが、イベントや教会の都合で変更がある。それがちゃんと外国人の方々に伝わっているか心配している。
- ・ミサ朗読で、3年以上日本にいる方には、日本語で朗読してもらおうと本人の日本語の勉強にもなるからよい。共同祈願なども日本語でお願いしたら良い。
- ・SNS などを利用してお茶に誘ったり、掃除を一緒にできるようにになれば、次世代来日する人にも伝わっていく。
- ・外国人と話す場合はわかりやすい日本語で丁寧に話したい。

⑦ 世界平和, 戦争

- ・戦争はすぐイメージできるが、平和は観念的だし構築するのは難しい。戦時下を生き延びた方々の話を聞くことが出来、ベルリンの壁崩壊の三日後、ちょうどその場にいたという方のお話を伺った。そして8項目にまとめた。
- ・①絶対に戦争を繰り返してはならない。
- ・②そのために、憲法9条を守る。
- ・③各家庭で平和教育をする。戦争の悲惨さを繰り返し語り継ぐ。戦争語り部の第一世代の方もおられるが、第二世代、第三世代にも語り継ぐ必要がある。
- ・④教会を各国の信頼と友好を結ぶ機関としたい。
- ・⑤常に平和を祈る。
- ・⑥戦場報道写真の有用性。つい最近も、メキシコ難民の親子が川でおぼれた写真が報道された。
- ・⑦戦争は次の世代の子供たちに大きな影響を与える。子供の虐待とも関係があるのではないかと語り合っている。
- ・⑧若者の心の成長を手助けする。地味ではあるが、平和を築くとはこういうことではないか。

⑧ 自然災害, 地球環境

- ・福音マーケットで出てきたテーマを日常的に話し合う場を、今まで自分たちは設けてきただろうか。普段はミサが終わってお茶も飲まないで、そのまま帰ってしまい、皆で話し合う場がないということに問題があることが分かった。この点について三つの意見が出た。
- ・①災害時の連絡網が出来ていない。家族葬に関して、葬式があっても教会に全く連絡がない。今は個人情報の問題があるが、(人との関係が)希薄になっているので、災害時の為にも、ぜひ連絡網を作っておくこと。
- ・②教会の中で話し合える場を作るため、皆に声掛けする。
- ・③今日話し合ったことを各教会に持ち帰って報告する。
- ・ゴミの処理については、3R(recycle=再資源化する, reduce=減らす, reuse=繰り返し使う)を教会レベルでも広げていってはどうか。
- ・環境問題は教会は関係ないと言っていてはすまされない状態になっているので、社会の問題として、教会でもっと話し合える場を作りたい。
- ・ボランティアグループに参加すること。
- ・教会の意識として、自分も一緒に神のみ旨に従うようにする。
- ・聖フランシスコのように、全被造物と兄弟愛をはぐくむよう努める。生き物を大事にする。
- ・教会の地理を生かし、どの教会でも災害時のサポートセンターになり得るように、前もってマニュアルを作っておく。
- ・教会が、地域の人々の活動の場にできないか、所属教会に問題提起してみる。

⑨ 教会, 信仰の継承, 教会の活性化

- ・幼稚園の先生たちを導く神父様がいらしたが、神父様たちが少なくなり、今はその指導が無くなり残念に思う。もう一度、何かの形で復活できないか。
- ・上記に関しては、幼稚園のチャプレンになっているので、子供たち、親、先生方に対して場所があると思う。
- ・各教会、幼稚園の特色を生かした何かを実行する。
- ・個人なりに祈り、開かれた教会を選んでいる人が多い。
- ・初心に帰って信仰を見直す。神様の声を聴くと、周りの人も認めてくれ、ついてきてくれると思う。
- ・たくさんの人に教会に来てもらうためにはどうしたらいいか。私がすべきことは、信者の横のつながりを大事にし、イベントなどを通じて、教会へ大勢の人が足を運び、再度教会へ来ていただく雰囲気をつくりたいと考えている。
- ・十字架の縦(神さまと人[私])と横(人と人[私])の関係がぶれないようにしたい。
- ・自分の心の中に、信仰と愛をもって、人と接していけばいい。



一 準備マニュアル(説明) 教区民の日(10/20)に向けて一

資料

- I 諏訪司教様の手紙…教区民の皆様へ「教区民の日(世界宣教の日)10月20日に向けて」**
私たちの今までの福音マーケットの歩みとこれからの課題。
- II 福音マーケットの共同作業**
2017年に福音マーケットの作業をするにあたって配られたシート(の要点)。
- III A(社会の問題)、B(教会の宝)の表**
 - ・ **II** 福音マーケットの共同作業のAにあたる分とBにあたる分のまとめ。
 - ・ いろんなグループで行われた福音マーケットで出てきたまとめ。
 - ・ Aの表の中の数字は、下記**IV**Cの表の中での数字に関連付け。
- IV C(AとBを並べて見えてきたもの)の表**
 - ・ **II** 福音マーケットの共同作業のCにあたる。
 - ・ 女性の会(高知大会, 2019.6.29)各グループの発表より。
- V この用紙…準備マニュアル(説明)**

準備要点と手順(方法)

- 1 これまでの福音マーケットの振り返り**
 - ・ 上記「資料」の**I**、**II**、**III**、**IV**の順に読む、眺める。
- 2 上記1を通しての分かち合い、話し合い**
 - ① 感じたこと、気づいたこと、発見したことを分かち合い、深めていく。
 - ② A(社会の問題)での優先課題、大切にしたい方向性等を具体的に選んでみる。
 - ③ 選んだ課題や方向性の実施に向けて何ができるかを話し合う。
- 3 上記2の①、②、③をまとめて発表できるようにする(発表用意)**
 - ・ ①、②、③全ての発表が難しい場合、この内一つを選んで発表してもOK。
 - ・ 一人または少人数でこれに関わる(推奨)。

準備・発表単位

- ・ 地区・ブロック単位が望ましいですが、準備期間が短いので、小教区(教会)単位でもかまいません。どの単位で準備するか、地区・ブロックの決定に委ねます。

準備とその回数

- ・ 2回
 - ・ 上記「準備要点と手順(方法)」**1**のために1回、**2**のために1回。
- ・ 1回(2回が難しい場合)
 - ・ 「準備要点と手順(方法)」**1**は、資料を配っておき個人で準備して来てもらい、**2**は皆さんが集まって分かち合い、話し合う。
 - ・ 「準備要点と手順(方法)」**1**と**2**を同じ日(午後にかけて)に行う。
- ・ 上記2回(または1回)の後、「準備要点と手順(方法)」**3**の発表用意をお願いします。

教区民の日(10/20)当日発表

- ・ 内容…上記「準備要点と手順(方法)」**3**のまとめを発表。
- ・ 発表者…一人でも複数でも、外国人にも関わっていただけたら理想的。
- ・ 時間…5～7分(発表する教会が少なければ10分程度の可能性あり)。
- ・ 方法…口頭での発表はもちろん、用紙(レジメ)配布、プロジェクター使用(パワーポイント、スライドショー、ビデオ)、インタビュー形式、授業形式、紙芝居、音楽(歌、合唱、合奏)、模造紙(後ろが見えにくいかも)、芝居、対話形式等、工夫を凝らしてもOK。

教区民の日(10/20)当日日程(予定)

9:30	受付	13:30～14:00	沈黙
10:00～12:00	発表(テゼ形式※)	14:00～15:00	ミサ
12:00～13:30	昼食、交流	15:30	解散

※テゼ形式…2つか3つの発表後テゼの歌を歌う。これを繰り返す。